

演 題：オールセラミッククラウンとラミネートベニアにて審美修復を行った1症例

演 者：添島賢一

発表日：2013年1月22日

key words

- 1.オールセラミッククラウン
- 2.アンテリアガイダンスを付与したラミネートベニア
- 3.診査診断
- 4.形成削除用のジグ（リダクションガイド）

はじめに

近年、インターネットなどの普及と、映像技術の革新により歯科治療に対する患者のニーズも痛みを取り除くだけではなく、よりきれいにといったクオリティーの高い審美治療美が要望されるようになってきたと考える。今回、比較的審美的要求の高い患者に対し修復を行った症例について発表したいと思います。

症例の概要

#21のオールセラミックの破折を主訴で来院されました。当日応急処置として破折したオールセラミッククラウンを除去し、テンポラリークラウンの作成をした。その後、患者面接を行ったところ、#11についてもCRの変色が気になるとの事で#11ラミネートベニアクラウン（フィニッシュラインを歯根側1/3に設定し、アンテリアガイダンスを付与する形態）、#21オールセラミッククラウンで修復を行う事とした。上顎中切歯の歯冠修復を行うに先立って、問診では患者の顎関節症状はなかったが、CRバイトで咬合器に付着し、CPIにてICPとCRに相違がない事と咬合状態の確認し、診断用Wax upを行い、形成削除用のジグ（リダクションガイド）と2ndプロビジョナルレストレーションの作成を行った。#11グロスプレパレーションではリダクションガイドを用いて削除量に注意し形成を行い診断用Wax Upにて得られたプロビジョナルレストレーションを装着した。プロビジョナルの経過観察を注意深く行った結果、脱離等や破折などのトラブルはなかったため、最終形成を行い最終補綴とした。

問題点を整理した後に最終的な治療計画を立案していく事が重要であると考え、診療を進めたつもりだが、咬合診断の明確な基準がなく安易に治療を進めてしまった事を反省し今後の臨床に活かしていきたいと思う。

諸先生方のご批判、ご助言をよろしくお願い致します。